

叱るか、見守るか



机美鈴

慌ただしい朝、いつときテレビに見入った。ニュース番組が「子を叱れない親が増えている」と批判的に報じていた。穏やかに論し、見守る育児が推奨される今、ガミガミ叱る親は減っただろう。だがニュースは、旧来の厳しいしつけを求めているようで、違和感を持った。

私自身は「叱る母親」だ。3歳の息子は騒ぎ、走り、散らかす。厳しく叱っても改善しない。叱った末、大泣きされて食事ができないまま飲食店を後にしたこともある。息子の成長を気長に見守りたいと思う反面、「人に迷惑をかけてはいけない」との思いが先に立ってしまう。

大阪府富田林市で子育て支援を続けた岡本聡子さんは「子どもは悪さをすると、汚すし、泣く。当然なのに親も周囲も許容できない。子どもに不慣れな少子化社会は寛容さを失っている」と語る。

冒頭のニュースの論調と同様に、世間の親子連れへのまなざしは厳しい。私も公共の場で、他者の留飲を下げるために我が子を叱ることもある。行動を正すという本来の目的ではなく、周りのイライラを吸い上げ、ぶつける行為に近い。

あなたはそれを見て、満足ですか。